

《履修上の留意事項》専門基礎科目の知識を復習するとともに再確認することを目的とすることから、以下の点に留意すること。

1. 履修するうえで必要な受講資料を授業時間ごとに配付することがあるので、必ず出席すること。
2. 配付資料や板書などに基づいて授業内容の重要ポイントを指示しつつ、授業を進行するので、メモなどを適切に書き留めること。
3. 配付資料などは受講する際の重要な資料であることから、当該授業終了後の資料請求には応じない。

《担当者名》 教授/入江 一元irie@ 教授/細矢 明宏hosoya@ 教授/谷村 明彦tanimura@
教授/安彦 善裕yoshi-ab@ 教授/石井 久淑hisayosh@ 教授/荒川 俊哉arakawa@
教授/根津 尚史nezu@ 准教授/根津 顕弘a-nezu@ 講師/宮川 博史miya@
講師/佐藤 惇j-sato@ 講師/佐藤 寿哉toshiya@ 講師/建部 廣明takebeh@
講師/植原 治osamu@ 講師/吉田 光希denty@ 助教/森川 哲郎t-morikawa@

【概要】

歯科医学における基礎歯科学は診断と治療を主とした臨床各科を理解するための基礎として重要な役割を担っている。この臨床基礎学では、臨床実習生を対象として基礎知識に裏打ちされた臨床実地のために、また、臨床の場で直ぐに役立つ基礎知識の整理のために、臨床との関連性に重点を置いた知識を深める。

【学修目標】

解剖学

顎顔面口腔領域と喉頭咽頭を構成する骨格、骨格筋、脈管と神経、および唾液腺などの内臓について説明する。

組織学

代表的な組織、器官の組織学的構造と機能を説明できる。

顔面と口腔の形成過程を説明できる。

歯と歯周組織の組織構造と形成過程を説明できる。

生化学

結合組織・硬組織に含まれる主要タンパク質の特徴を理解する。

カルシウムの恒常性維持機構と骨形成・骨吸収の仕組みを理解する。

唾液の主要成分と機能を理解する。

遺伝子の複製、転写、翻訳の機構とがん遺伝子、癌抑制遺伝子について理解する。

微生物学

微生物の構造とその役割を説明できる。

代表的な滅菌・消毒法、化学療法薬とその作用機序を説明できる。

病原性微生物の感染・発病機序を説明できる。

免疫担当細胞を理解し、自然免疫、獲得免疫、体液性免疫、細胞性免疫を説明できる。

口腔細菌叢と口腔細菌の特徴を説明できる。

口腔感染症と病原微生物について、その作用機序を説明できる。

生体材料工学

歯科生体材料の特性（機械的性質、熱的性質、化学的性質及び生物学的性質）について説明できる。

歯科用印象材の種類、成分・組成、ゲル化反応、操作法、用途及び特性について説明できる。

義歯床用レジン及び粘膜調整材の種類、成分・組成、重合反応、成形方法及び特徴について説明できる。

歯冠修復用レジン（充填用コンポジットレジン、硬質レジン）の成分・組成、重合反応、硬化体の構造と性質及び操作方法について説明できる。

歯科接着に使用される接着性モノマーの種類と分子構造、被着体の表面処理及び接着界面の構造と耐久性について説明できる。

薬理学

歯科臨床における薬物治療の役割について理解する。

臨床口腔病理学

細胞組織の再生と形態的所見について説明できる。

循環障害の成因、形態及びその転帰について説明できる。

炎症の概念と発生機構及び病理組織学的分類について説明できる。

腫瘍の概念と発生原因、組織学的な分類と腫瘍の進展について説明できる。

染色体・遺伝子の基本概念とその異常により発生するさまざまな疾患について説明できる。

生理学

動物性機能、植物性機能及び内部環境の恒常性維持に関わる各臓器の働きと調節機構について説明できる。

顎・顔面・口腔領域の運動機能（咀嚼、嚥下、嘔吐、発声）、感覚機能（味覚、口腔の体性感覚）及び自律機能（唾液分泌）を説明できる。

保健衛生学

ペリクルから歯垢、歯石形成に至る機序を説明できる。

う蝕の発生要因とその予防のための対策を説明できる。

フッ化物によるう蝕予防法について説明できる。
 口臭の原因とその予防方法について説明できる。
 歯科領域における各種の指標の意味・内容と算定方法について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	解剖学 頭蓋を構成する骨	頭蓋を構成する骨を列挙する。 頭蓋の外観、翼口蓋窩、内頭蓋底、外頭蓋底の構造を説明する。 頭蓋を構成する個々の骨、特に蝶形骨、側頭骨、上顎骨、下顎骨、舌骨の構造を説明する。 顎関節の構造を説明する。 頭蓋を構成する骨に関する問題とその解説を通して知識を確認する。 (A-3-2-2,8, A-3-3-8)	入江 一元
3) 4	頭頸部の筋	表情筋、咀嚼筋、舌骨上筋、舌骨下筋、口蓋筋、喉頭筋、咽頭筋を列挙し、作用を説明する。 頭部三角と筋間隙を列挙し、その意義を説明する。 頭頸部の骨格筋に関する問題とその解説を通して知識を確認する。 (A-3-2-3,4,15)	入江 一元
5) 6	頭頸部の神経系	ニューロン、神経核と神経節を説明する。 中枢神経系と末梢神経系の成立ちを説明する。 脳神経12対の成り立ちを説明する。 三叉神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経と舌下神経の走行経路、線維要素を説明する。 顎顔面に分布する交感神経と副交感神経の走行経路と働きを説明する。 頭頸部の神経系に関する問題とその解説を通して知識を確認する。 (A-3-2-6,7)	入江 一元
7	頭頸部の脈管 口腔、舌、喉頭と咽頭の構造と唾液腺	心臓の構造を説明する。 顎顔面と頸部に分布する動脈と静脈を列挙し、その走行経路を説明する。 所属リンパ節を列挙し、リンパ回収領域を説明する。 頭頸部の脈管に関する問題とその解説を通して知識を確認する。 (E-2-1)-) 口腔の構造と特徴について説明できる。 舌の構造と特徴について説明できる。 咽頭と喉頭の構造と特徴について説明する。 唾液腺の構造と特徴、その分泌神経について説明する。 口腔に関する問題とその解説を通して知識を確認する。 (A-3-2-5,12,13,16, A3-3-3-1,3,4,7)	入江 一元
1	組織学 組織学総論	上皮組織の形態と機能について学ぶ。 (C-2-3)-(1)-) 骨の構造と構成する細胞について学ぶ。 (C-2-3)-(2)- ,) 血液細胞の機能と形成過程について学ぶ。 (C-2-3)-(11)- ,)	細矢 明宏
2	顔面と口腔の発生	鰓弓及び咽頭嚢とそれぞれに由来する構造物について学ぶ。 (E-2-3)-) 顔面と口腔の形成過程について学ぶ。 (E-2-3)- ,)	細矢 明宏

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
3	歯と歯周組織の発生	歯の発生過程について学ぶ。 (E-3-1)-) 歯周組織の発生過程について学ぶ。 (E-3-1)-)	細矢 明宏
4) 5	歯と歯周組織の構造	歯と歯周組織の組織構造について学ぶ。 (E-3-1)- , ,)	細矢 明宏
6	歯の解剖学	個々の歯に出現する異常を整理して学ぶ。 (E-3-1)- , E-3-2)-)	建部 廣明
1	生理学 神経系・感覚系	神経の電気現象について学ぶ。 末梢神経系の働きについて学ぶ。 中枢神経系の働きについて学ぶ。 感覚機能(特に、体性感覚)について学ぶ。 反射について学ぶ。 (C-3-4)-(5), (6))	石井 久淑
2	運動系	骨格筋の神経筋接合部における興奮伝達と興奮収縮連関について学ぶ。(C-3-4)-(3))	石井 久淑
3	循環系・呼吸系	血液の組成と各成分の生理作用について学ぶ。 循環調節について学ぶ。 肺の換気運動とガス交換について学ぶ。 (C-3-4)-(4), (7), (8))	佐藤 寿哉
4	消化系・排泄系	各種消化液と三大栄養素の分解過程について学ぶ。 尿の生成過程と腎クリアランスについて学ぶ。 (C-3-4)-(7), (10))	佐藤 寿哉
5	内分泌系・生殖系	各ホルモンの構造、分泌線及びそれらの作用について学ぶ。 生殖器の構造と機能について学ぶ。 (C-3-4)-(9), (11))	佐藤 寿哉
6	顎・口腔・顔面領域の運動・感覚・自律機能	歯、歯根膜及び口腔粘膜の体性感覚について学ぶ。 咀嚼運動(顎運動)の神経機構について学ぶ。 嚥下と嘔吐の神経機構について学ぶ。 発声と構音の機序について学ぶ。 唾液の成分と機能について学ぶ。 (E-2-1), 2))	石井 久淑
1	生化学 コラーゲンとプロテオグリカン	コラーゲンの構造、分布、生合成、代謝について学ぶ。 プロテオグリカンの構造、分布、役割について理解する。 インテグリンと細胞外基質との接着について学ぶ。 (D-1-4)-), (D-1-4)-)	荒川 俊哉
2	遺伝子と遺伝	遺伝子の基本構造について理解する。 (D-1-2)-) DNAの複製について理解する。 (D-1-2)-)	荒川 俊哉
3	骨と歯のタンパク質	オステオカルシン、骨シアロプロテイン、オステオポンチン、ホスホホリン、エナメルタンパク質の構造、生合成、代謝、役割について学ぶ。 (D-2-3)-(1)-), (F-3-1)-)	荒川 俊哉
4	遺伝子と遺伝	転写と翻訳の仕組みを理解する。 (D-1-2)-) 癌遺伝子とがん抑制遺伝子について理解する。 (D-1-2)-) 分子生物学の基本(PCRと制限酵素)について理解する。	荒川 俊哉

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
5	骨形成・骨吸収の仕組み	骨のリモデリングについて理解する。 (D-2-3)-(2)-) 骨の石灰化の仕組みについて理解する。 (D-2-3)-(1)-)	荒川 俊哉
6	骨形成・骨吸収の仕組み	骨形成と骨吸収の仕組みについて理解する。 (D-2-3)-(1)-)	荒川 俊哉
7	唾液の成分と機能	唾液に存在する多様な成分の構造と機能、及び分泌機構について理解する。 (F-2-2)-)	荒川 俊哉
1	微生物学 微生物学総論	微生物の形態学的・生理学的特徴を理解する。 代表的な滅菌消毒について理解する。 化学療法薬の作用機序と薬剤耐性菌について理解する。 (A-4-1-1,6~8)	宮川 博史
2	一般病原微生物各論 感染論	重要な病原細菌・真菌について理解する。 微生物の病原性と宿主への感染・発病について理解する。 (A-4-1-1~4,9)	宮川 博史
3	免疫 1	宿主の免疫防御機構について理解する。自然免疫と獲得免疫について理解する。 細胞性免疫と体液性免疫について理解する。 免疫担当細胞の種類と働きについて理解する。 (A-4-2-1~2)	宮川 博史
4	免疫 2	抗原提示機能と免疫寛容について理解する。 アレルギー・免疫不全症・自己免疫疾患について理解する。 粘膜免疫について理解する。 ワクチンについて理解する。 (A-4-2-3~7)	宮川 博史
5	ウイルス学総論各論 口腔微生物総論	ウイルスの一般的な特徴と代表的なウイルス感染症について理解する。 口腔微生物の特徴と口腔細菌叢の多様性について理解する。 (A-4-1-1~5)	宮川 博史
6	口腔感染症 口腔微生物各論	代表的な口腔感染症についてその病原微生物の特徴と疾患の成立・進行の機序について理解する。 代表的な口腔微生物について形態的・生理学的特徴、また、その病原因子について理解する。 (A-4-1-1~5)	宮川 博史
1	生体材料工学 歯科生体材料の特性 1．機械的性質 2．熱的性質	応力 - ひずみ線図について学び、比例限、弾性限、耐力、強さ、弾性係数、レジリエンス、硬さなどの材料の特性について理解する。 材料の熱膨張係数及び熱伝導率について学ぶ。 (B-1-1)	根津 尚史
2	3．化学的性質 4．生物学的性質	材料の吸水性及び溶解性などの性質について学ぶ。 (B-1-2) 材料の生体安全性や生体適合性のなどの性質を理解するとともに、それらの試験法を学ぶ。また、アレルギー性疾患の発症に代表される歯科生体材料の副作用を学ぶ。 (B-1-3)	根津 尚史
3	印象用材料 1．印象材の種類 2．印象材の所要性質	歯科用印象材のを弾性印象材と非弾性印象材に分類し、それらの用途（概形印象、精密印象）を学ぶ。 印象材の特性（弾性ひずみ、永久ひずみ、寸法安定性、細部再現性）について学ぶ。	根津 尚史

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		(B-2)	
4	3．印象材各論	代表的な印象材の成分・組成、ゲル化反応、操作法及び特徴について学ぶ。 (B-2)	根津 尚史
5	義歯床用レジン 1．加熱重合レジン 2．常温重合レジン (流し込みレジン) 3．その他の義歯関連材料	床用アクリルレジンの種類、粉末・液の成分・組成、重合反応、成形法及び性質について学ぶ。 射出成型して使用する熱可塑性床用レジンの種類、成形法及び特徴について学ぶ。 (B-2-2, B-3-1&4) 義歯裏装材及び粘膜調整材の種類、成分・組成及び操作方法について学ぶ。 (B-2-2, B-3-1)	根津 尚史
6	歯冠修復用レジン 1．コンポジットレジン 2．硬質レジン	成形充填用コンポジットレジンに使用されるモノマーの化学構造、重合反応、重合体の構造・性質及びフィラー配合の効果について理解する。 硬質レジン前装冠の構造と使用される材料及び製作方法について学ぶ。 (B-2-1, B-3-1&4)	根津 尚史
7	歯科接着 1．歯質とレジン 2．ポーセレンとレジン 3．金属とレジン	歯科接着に使用される接着機能性モノマーの種類、分子構造及び接着機構について理解する。 被着体（エナメル質、象牙質、ポーセレン、金属）の表面処理法と使用される器材及び薬剤について学ぶ。 (B-2-3)	根津 尚史
1	薬理学 1．薬物の体内動態 1) 薬物の輸送 2) 薬物の投与経路 3) 薬物の体内分布 4) 薬物の血中動態 5) 薬物代謝 6) 薬物の排泄	単純受動拡散、濾過、能動輸送の意味を説明できる。 薬物の投与方法を学習し、各投与方法の特徴について説明できる。 生体内での薬物の分布様式を説明できる。 イオン型と非イオン型の性質の違いについて説明できる。 血液中での薬物の存在様式について説明できる。 結合型薬物と遊離型薬物の特徴を説明できる。 薬物代謝の機序を説明できる。 薬物代謝酵素の特徴を説明できる。 薬物の排泄経路を説明できる。 薬物排泄に影響する因子について説明できる。 C-5-3)	谷村 明彦
2	2．薬理作用と作用機序 1) 薬物の作用機序 2) 薬物の用量と反応	薬理作用の基本様式を説明できる。 薬物の用量-反応関係について説明できる。 アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。 ED50、LD50、治療係数について説明できる。 薬と受容体との相互作用について説明できる。 薬物の作用機序にはどのような種類があるかを説明できる。 C-5-2)	谷村 明彦
3) 4	3．薬物の種類と特徴 1) 受容体に作用する薬物 2) チャネルに作用する薬物 3) 止血薬と抗凝血薬	アセチルコリンの作用と関連する受容体を説明できる。 アドレナリンの作用と関連する受容体を説明できる。 受容体作動薬と遮断薬を説明できる。 筋弛緩薬の種類と作用の違いを説明できる。 種々の受容体に作用する薬物とそれらの作用を説明できる。 種々の生体内分子（チャネル等）に作用する薬物とそれらの作用を説明できる。 局所性及び全身性止血薬の名称を列挙し、それらの作用機序を説明できる。	根津 顕弘

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		抗血栓薬の名称を列挙し、それらの作用機序を説明できる。 (C-5-2-)、(C-5-4-)	
5	3. 薬物の種類と特徴 4) 抗炎症薬 5) 化学療法薬	代表的な抗炎症薬の名称を列挙し、それらの作用・副作用を説明できる。 代表的な抗菌薬の名称を列挙し、それらの作用・副作用を説明できる。 代表的な抗真菌薬、抗ウイルス薬、抗腫瘍薬の名称と特徴を説明できる。 (C-5-2)、(C-5-4)	根津 顕弘
6	4. 薬物の種類と副作用	薬物の一般的副作用、有害作用を説明できる。 薬物の口腔・顎顔面領域に現れる副作用、有害作用を説明できる。 薬物の併用による相互作用、有害作用を説明できる。 (C-5-2) - ()、(C-5-4)	根津 顕弘
1	臨床口腔病理学 増殖性病変 A 細胞増殖 B 再生と肉芽組織 1. 再生 2. 肉芽組織 3. 創傷の治癒 4. 骨折の治癒 5. 異物の処理 C 組織の移植 D 組織の化生 E 組織の肥大、増生	細胞の増殖と分化を基礎にして、各種の病変の修復に伴う細胞の再生、肉芽組織や異物の処理に際してみられる器質化など、さらに、種々の病的状態に生ずる肥大と増生、化生などについて説明できる。 (D-4-2) ~ ()	森川 哲郎
2	循環障害 A 局所循環障害 1. 充血 2. うっ血 3. 局所の貧血(乏血) 4. 出血 1) 出血の種類 2) 出血の原因 3) 出血の結果と影響 5. 出血性素因 1) 血液凝固 2) 出血性素因 3) DIC(播種性血管内凝固症候群) 6. 血栓症 7. 塞栓症 8. 梗塞 9. 傍側循環 B 全身循環障害 1. 水腫 1) 水腫の発生機序 2) 水腫の分類 2. 脱水症 3. ショック 4. 高血圧症	循環系の機能を理解させ、循環系に障害が生じると細胞障害、組織障害、臓器障害へと進展することが説明できる。 局所循環障害、全身循環障害を説明できる。 (D-4-3) ~ ()	森川 哲郎
3	染色体・遺伝子及び発生の異常 1. 染色体・遺伝子の基本概念 2. 発生異常	遺伝子及び発生の異常を説明できる。 (D-1-2) ()	吉田 光希
4	染色体・遺伝子及び発生の異常 3. 染色体異常による疾患 4. 遺伝子異常による疾患	染色体の異常や遺伝子の異常による疾患を説明できる。 (F-2-4) - (7) ()	吉田 光希

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
5	炎症 A 炎症の定義と意義 B 炎症に關与する細胞と組織 C 炎症の形態学的変化 D 炎症の分類 1. 変質性炎 2. 滲出性炎 3. 増殖性炎 炎症 4. 特異性炎（肉芽腫性炎） 1）結核症 2）梅毒（先天性、後天性） 3）癩 4）真菌症（放線菌症）	炎症の定義と生体の防御における意義を説明できる。 （D-4-4） 炎症の分類、及びそれぞれの炎症について説明できる。 （D-4-4） 特異性炎と非特異性炎との違いについて説明できる。 （D-4-4）	安彦 善裕
6	腫瘍 1. 腫瘍総論 1) 定義 2) 腫瘍の形態 a. 肉眼的所見 b. 組織学的所見 3) 腫瘍の増殖様式 4) 腫瘍の進展様式 （転移を含む） 5) 再発	腫瘍の定義、形態学的特徴を説明できる。 転移、再発、良性、悪性などの意味を解説し、良性悪性の基準を説明できる。 （D-4-5）	佐藤 惇
7	腫瘍 6) 発育速度 7) 腫瘍の生体に及ぼす影響 8) 腫瘍の良性と悪性 2. 腫瘍各論 1) 良性上皮性腫瘍 2) 良性非上皮性腫瘍 3) 悪性上皮性腫瘍	腫瘍の発生原因、疫学などを説明できる。 上皮性腫瘍、非上皮性腫瘍、混合腫瘍、特殊腫瘍などの各腫瘍の特徴を説明できる。 （D-4-5）	佐藤 惇
1 { 2	口腔環境と歯口清掃 1. 口腔の不純物 a. ペリクル b. デンタルプラーク c. 歯石 d. 着色性沈殿物	齲蝕・歯周疾患は細菌感染症であることをまず再確認し、その細菌の供給源である歯垢の実体を理解する。 バイオフィルムのひとつとしてデンタルプラークを理解する。 (B-3-2)-)	植原 治
3	2. 歯口清掃の意義 a. 歯口清掃の目的 b. プラークコントロールの定義 3. 歯口清掃の種類 a. 自然的清掃 b. 人工的清掃 c. 手術的清掃 d. 化学的清掃 4. 歯口清掃指導 a. 指導の実際 b. 歯口清掃の評価	歯垢から歯石形成に至る機序について理解を深め、歯口清掃の意義を知る。 (B-3-2)-) 人工的清掃については実際の指導において必ず必要となるので、予想される様々なケースについて対応できるよう十分に理解・習得する。 歯口清掃指導は基本的な原則を理解し、実際の指導では発育段階に即して対応することを知る。 歯口清掃指導前後の評価においては各種歯垢顕示薬が有用であることを知る。また、記録法としてオ・レリーのプラークスコアがそれに対応していることを理解する。 (B-3-2)-)	植原 治
4 { 5	齲蝕の予防 1. 齲蝕について 2. 齲蝕の発生要因 3. 齲蝕予防の原則 4. 齲蝕予防法 5. 齲蝕予防効果の評価 6. 齲蝕リスク検査 7. 代用甘味料	齲蝕の発生要因を知る。 齲蝕予防のための対策を熟知する。 科学的根拠に基づいた齲蝕予防法を知る。 齲蝕リスク検査について知る。 齲蝕予防における保健指導は歯口清掃指導はもとより、生活指導、食事指導が必須項目であることを理解する。 (B-3-2)-)	植原 治

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	8 . 保健指導		
6) 7	フッ化物の応用 1 . フッ化物による齲蝕予防 a . 全身応用 b . 局所応用 c . 急性中毒・慢性中毒	齲蝕予防では、フッ化物による予防法が最も確実・効果的であることを知る。 フッ素の中毒については、急性中毒と慢性中毒に分けて整理し熟知する。 (B-3-2)-)	植原 治
8	口臭の予防 1 . 口臭の原因 2 . 口臭の分類 3 . 口臭の予防 4 . 保健指導 5 . 保健（健康）教育	口臭の原因について概要を理解し、口臭の分類と関連づけて対比して理解する。 口臭の予防は局所的予防と全身的予防があることを知る。 (B-3-2)-)	植原 治

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

試験（100%）

【教科書】

「口腔解剖学」脇田 稔 井出吉信（監修）医歯薬出版
「入門組織学」牛木 辰男 南山堂
「口腔組織・発生学」脇田 稔、前田 健康、山下 靖雄、明坂 年隆（編）医歯薬出版
「基礎から学ぶ歯の解剖」前田 健康 編 医歯薬出版
「口腔微生物学・免疫学」川端重忠ら 編 医歯薬出版
歯科理工学講義資料「歯科材料・生体材料」生体材料工学分野 編
「スタンダード病理学」賀来 亨・山本 浩嗣 編 学建書院
「ビジュアル生理学・口腔生理学」学建書院
「口腔保健・予防歯科学」安井ら 編 医歯薬出版

【参考書】

「歯学生のための病理学、一般病理編」二階 宏昌、佐藤 方信、賀来 亨 編 医歯薬出版
「病態病理学」菊地 浩吉 監修 南山堂
「口腔内科学」榎本 昭二 ほか 編集 永末書店
「シンプル病理学（改訂第5版）」笹野 公伸 ほか 編 南江堂

【備考】

解剖学
口腔解剖学 コア・テキスト（解剖学分野 編）
生化学
臨床基礎演習生化学ハンドアウト（生化学分野 編）

【学修の準備】

第2～4学年に学習した教科書や講義ノートなどを用いて復習しておく。

解剖学

「口腔解剖学 コア・テキスト」を事前にしっかりと復習し、授業に臨む。

予習：30-60分、事前に配布する課題問題を解く。必要があれば教科書などを用いて調べる。

復習：30分、専門用語について説明できるようにまとめる。

組織学

- ・ 教科書又は2学年の組織学の講義ノートの該当する項目の復習をしておく。（1、2、4）
- ・ 教科書又は2学年の人体発生学の講義ノートの該当する項目の復習をしておく。（3）

微生物学

- ・ 予習：教科書、過去の配布資料、講義ノートを用いて復習しておく。（30分）
- ・ 復習：講義内容について理解を深めておくこと。（30分）

【ディプロマ・ポリシーと当該授業科目の関連】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および

歯科保健と歯科医療の技術を習得するための基礎知識を学修する（専門的実践能力）。

DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーションの基本能力を身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる基本能力を身につける（自己研鑽力）。

DP4.多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために必要な基本知識を学修する（多職種が連携するチーム医療）。

DP5.歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な基本知識を学修する（社会的貢献）。

【実務経験】

入江 一元（歯科医師）、安彦 善裕（歯科医師）、石井 久淑（歯科医師）、根津 顕弘（薬剤師）、細矢 明宏（歯科医師）、佐藤 惇（歯科医師）、佐藤 寿哉（歯科医師）、建部 廣明（歯科医師）、高橋 昌己（歯科医師）、渋井 徹（歯科医師）、吉田 光希（歯科医師）、植原 治（歯科医師）、森川 哲郎（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

歯科医師としての実務経験を活かし、幅広い歯科医療の展開の基盤となる基礎歯科医学を学修し、目指すべき歯科医師像の構築に寄与する教育を行っている。